

# 事務所通信 リソース

6月号 VOL. 24

## 税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : [cyuou@csk-i.com](mailto:cyuou@csk-i.com)



いつもお世話になっております。

今年は「うるう年」ですが、7月1日には「うるう秒」の実施も予定されています。

「原子時計」との誤差が 0.9 秒以上になったとき挿入される「1秒」が「うるう秒」だとか。

7月1日には誰かに心を込めて「ありがとう」を言ってみませんか。いつもより長い1秒の最高の使い方だと思います。

## 【601万見なくなりましたと思いませんか?】

所得税額が1000万円を超えた人の氏名住所納税額が公示される「高額納税者公示制度」。

高額納税のスポーツ選手や、芸能人などがマスコミなどでも取り上げられていたご記憶があると思います。

実は、この高額納税者公示制度は2006年に廃止されました。

そもそもこの制度は、納税者の過少申告を防ぐ心理的効果「第三者のチェックを受ける」というけん制的効果があるとして1950年に導入されました。

しかし、その結果、高額納税者の名簿が簡単に入手できることにもなりました。そのため、公示された人のもとには営業目的の手紙が届いたり、セールスマンからの勧誘や寄付の強要などが多発しました。また、本人やその親族が身代金目的の誘拐など、犯罪の対象になる恐れもあり廃止が求められていました。

そして、目的外の利用や犯罪を誘発しているなどの理由で、2005年4月からの個人情報保護法の全面施行もあり、廃止となったのです。

ちなみに、制度最後の2005年に公示された高額納税者のトップは会社員で、納税額は37億円弱でした。なお、歌手部門のトップは、宇多田ヒカルさんで約3.6億円。俳優タレント部門は、みのもんたさんの約2億円。プロスポーツ選手部門は、佐々木主浩さんの約2.3億円でした。このようにしてみると、その時代に活躍していた人がわかり当時の事が思い出されますね。



## 【「潜在ニーズ」の掘り起こしでカラオケルームに行列が!】

90年代に爆発的に流行したカラオケボックス。今、ひとり専用のカラオケルームが連日順番待ちの人で賑わっています。狭い一畳ほどのスペースにモニターとマイクが装備され、伴奏はスピーカーではなくヘッドフォンから聴きます。ドアには鍵がついてセキュリティも万全、誰にも気兼ねせず好きな歌を選び、邪魔されることなく熱唱を楽しめます。

衰退するカラオケ市場で「人前は苦手だけど歌は大好き」という潜在ニーズを掘り起こしたリサイクル型のブームですね。



## 【今月の教えてキーワード:NPO法人】

社団法人の一  
種としてNPO法  
特定非営利活動  
促進法)に基づ  
き、都道府県また  
は指定都市の認  
証を受けて設立  
された法人のこ  
とをいう。略称  
は、Non Profit  
Organization の  
頭文字を用いて  
いる。  
従来、公益の分野  
においては行政  
が担ってきたが、  
小回りがきいて  
機動性にすぐれ  
た民間非営利団  
体が、行政での対  
応が難しい分野  
をカバーし、行政  
と並んで公益を  
担う力を持つこ  
とで市民主体の  
社会が実現でき  
るよう期待され  
ていく。

## 【商売の「100」引く「1」は…】

そのお鮨屋さんの繊細な仕事ぶりは、海外の食通さえもうならせると評判でした。

うわさを聞きつけたKさんは、友人と足を運び至福の2時間を過ごしたそうです。味の良さはもちろんにぎりのひとつひとつに施された丁寧な仕事はまるで、芸術品のようで、普通なら目玉が飛び出るほどのお会計も「これだけ払う価値は十分にあるとお客に思わせるのは大したものだ」と、大満足で店を出たそうです。



ところがその半年後、再びその店を訪ねたKさんは非常にがっかりしたそうです。

「人が代わったな」そう思ったKさんはさりげなく板前に訊いてみると、案の定、前の大将は辞めてしまったのだとか。

ただ闇雲にコスト削減を進めるオーナーに、大将が嫌気をさしたのだらうというのがKさんの推測です。

その日が初めてのお客様なら「立派な店だ」と感心するレベルでも、以前を知っているお客様は騙せません。海外からのお客様を、「和」の心で感動させたいというコンセプトでしつらえた店内も、ネタや味の手抜きを感じた途端に薄っぺらく感じてしまったそうです。

「この店にはもう来ないだろう」とKさんが思ったのは間違いのないでしょう。

この一件でKさんは、「100引く1はゼロ」という商売の基本を改めて実感したそうです。

商売というのは「100引く1が99」にはなりません。100人の社員が頑張っても、たった1人が気を抜けば、それまで築いた信用が泡のように消えてしまいます。

昨日まで100点でも、ひとつの手抜きで全体の点数が一気に下がってしまうのです。

商売は常に「100%」しかありません。ひとつでも欠けたらゼロになってしまいます。

お客様は手抜きに敏感で、口に出さなくてもしっかり見抜いているものです。

だから「100引く1はゼロ」なのです。

裏を返せば、お客様のためにできることを全力で考え、100%の誠意と努力で商売に勤しめば、お客様はちゃんと感じ取ってくれます。そして、きっとそのお客様が新しいお客様を連れてきてくれることでしょう。



## ◇◆◇クールビズ実施のお知らせ◆◆◇

当事務所では、今年も「北海道環境宣言」の行動実践に協賛し、クールビズ(具体的にはノーネクタイ等)を実施することと致しました。

期間は、6月11日より9月30日までといたします。

なお、クールビズへの対応は職員個々の判断にまかせておりますので、

各人毎又は、月日毎に異なる場合があります。

なにとぞ、趣旨をご理解の上、ご了承お願い申し上げます。

